

# 議会報告会報告書

開催日時	平成27年7月24日（金） 午後 7時00分～ 8時30分	
開催場所	追浜コミュニティセンター	
出席議員	代表者	矢島真知子
	司会者	杉田 惺
	報告者	本石篤志（予算）、木下憲司（総務）、南まさみ（生環）、関沢敏行（教福）、伊藤順一（都整）、永井真人（観光）
	記録者	本石 篤志 （パソコン操作：土田弘之宣、受付：葉山 直）
参加人数	7 名	
報告内容	<p>（質問・回答）</p> <p>Q 米海軍横須賀基地内にある1号ドックが世界遺産に指定されなかった経緯をご教示願いたい。</p> <p>A 1号ドックは、明治4年に完成した最も古いドックであるが、市民側からも、また行政組織にも世界遺産にしようという動きが無かったことが率直な理由として挙げられる。今後は、横須賀の歴史的遺産が世界遺産に指定されるよう、意識のある市民の方々にお集まりいただき、議会と共に意識啓発を図ってまいりたい。</p> <p>Q 「横須賀製鉄所（造船所）創設150周年記念事業」（以下「150周年事業」という。）について、平成19年に行われた「市制施行100周年記念事業」（以下「100周年事業」という。）の反省点や総括がどのように活かされているかお聞かせ願いたい。</p> <p>A 150周年事業の内容と100周年事業の内容は、行政からの提案では若干相違している。100周年事業でも行われたマーチング・バンド等による記念パレードも開催されるが、自然・人文博物館等において企画特別展を開催するとか歴史でつながる富岡製糸場のある富岡市と連携を図るなど100周年事業の際には無かった事業も実施される予定である。但し、100周年事業の反省点を踏まえた検証は無かったことは否めない。</p> <p>Q 岩手県釜石市の山中にある橋野高炉跡が世界遺産に指定される中、150周年という佳節を迎える横須賀製鉄所が浮かび上がってこなかったことに現在横須賀が抱えるアイデンティティーに関する問題点を見出すことができる。アイデンティティーを徹底する他の自治体を例示すれば、会津若松市では、日新館の什の掟を街中に貼り付けてあったり、福井ではいまだに橋本佐内の立志式を行っていたり、長岡市民は皆山本五十六のことを周知していたりとかしている。横須賀においては、これらのようなアイデンティティーが無いことが横須賀の歴史的遺産が周囲から評価されない原因であると考える。今後は、日本の近代における先駆けである横須賀の歴史について問題意識を持って積極的に学び、周知していく努力が必要であると思う。例えば、150周年事業を契機として小栗上野介や中島三郎介など横須賀に関わりのある幕府側の要人の視点で見た明治維新の大河ドラマを作ることを働きかけていく等の努力をしていただきたい。</p> <p>A まったく同感である。一昨年議会は、（仮称）軍港資料館等検討委員会を設置して、横須賀に軍港資料館を構築することを提言した。同検討委員会において様々な議論を重ねる中、前提として、横須賀の歴史を学び、横須賀の長所をそのアイデンティティーとして位置付ける必要性を見出した。そして現在は、このアイデンティティーを次の世代へ確実に伝承していくことの大切さも実感している次第である。また、150周年事業も単なる祭典で終わらせるのではなく、横須賀のアイデンティティーを受け継いでいけるような事業となるよう議会は危機感を持って関わってまいりたい。</p> <p>Q 本日配布された資料の内、観光立市推進条例を説明する箇所において市のキャラクターの「ペリリン」が掲載されている。日本にとってペリーは征服者であり、世界的に見ても征服者を市のキャラクターにしているのは横須賀ぐらいではないかと思われる。横須賀に関わる他の著名人として中島三郎介がいるのになぜ用いないのか。中島三郎介が作った浦賀造船所と横須賀製鉄所（造船所）は造船所という枠組みの中でつながりがあり、取り上げてよいと考える。また、横須賀製鉄所について多くの市民は詳細な内容を知悉していない。そのようなレベルで150周年事業が市民の中に根付くのか心配である。横須賀製鉄所の詳細な内容を市民へ積極的に啓発することにより横須賀のアイデンティティーが形成されると思う。京都や福井であれだけの地場産業が出ていかないのは郷土愛があるからである。横須賀から企業が撤退するのはこの郷土愛が無いからである。本当は横須賀は良い街なので議会も市民に力強くアピールしていただきたい。</p> <p>A 議会も再度認識すべき重要な指摘だと思う。中島三郎介については、現状横須賀市の浦賀と函館市の中島町の間において交流を実施している。また浦賀の祭礼で取り上げられるなど市内におけるその知名度は徐々に増している。ペリーを市のキャラクターとして用いた理由は、歴史の教科書に掲載されるなどその知名度が高いためであり、横須賀を売り込むためのやむを得ない手法であるにご理解いただきご容赦願いたい。横須賀の郷土史については小学校の頃から打ち込んでいかなければならないことと思っている。市民と協働して実施を目指してまいりたい。</p>	

横須賀市議会議長 様

平成27年 8月 7日

上記のとおり報告します。

代表者 矢島 真知子